

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	国際関係と外交課題 A	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	木曜1限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-201
学修分野			
授業目的 ※	現在の国際関係の在り方を様々な現象や事例を通して理解する。また現代日本の外交課題・国際課題を理解する。その際、国際政治の歴史や国際関係理論を手がかりにする。国際関係論や国際政治を専門的に学ぶ上での基礎知識を取得することができる。		
到達目標	現在の国際社会やその問題に興味関心をもてるようになるとともに歴史、理論の視点からそれらを考えられるようになる。日本の外交課題・国際問題に対して自分の立場とともに異なる視点や立場に対して理解をできるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	「平和」というテーマから現代の国際関係の在り方を学ぶ。そして現状を理解するために背景となっている国際政治史・国際関係理論を概説する。また日本の外交課題を考察するために、日米関係、日本と東アジアを事例として取り上げる。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【遠隔授業】 オンデマンド講義形式を中心におこなう。授業の双方向性を実現するため、そして理解度・習熟度を見るために課題・リアクションペーパー、参考文献の学習の提出が求められる。それをもとに講評を実施し、理解の共有をはかる。 【対面授業】 講義形式を中心におこなう。講義によっては映像資料なども用いる。毎回授業では、双方向性を実現するため、可能な限りアクティブラーニングの手法を活用する。理解度・習熟度を深めるために課題・参考文献の学習がの提出が求められる。		
評価方法 ※	課題・リアクションペーパー、参考文献の学習、そして最終テストより授業内容への理解度・習熟度を判断する。		
評価基準	課題・リアクションペーパー40点、参考文献の学習10点、最終テスト50点 合計100点		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		

注意事項	授業への積極的な参加が望まれる。予習、リアクションペーパーの作成を通じて、講義で学んだこと、考えたこと、自分との関係を積極的に考えること・記述することが望まれる。また、個々人で自習をおこない興味を持ったテーマについてインターネット・文献調査をすることが必要となる。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科	
科目名 ※	スポーツ社会学		単位数 ※	2 単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	木曜日 1 限	
キャンパス※	千葉キャンパス		教室※	6-106
学修分野				
授業目的 ※	本授業は、近代社会におけるスポーツの特徴や意義・役割について概説する。またこれからのスポーツ振興のあり方や方法についても概説する。			
到達目標	スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方について説明できるようになる。さらに地域のスポーツ振興についても興味を持てるようになる。			
授業内容 授業形態 ※	本授業では、まずスポーツの概念や歴史から学ぶ。さらにスポーツ振興に重要な役割を果たす総合型地域スポーツクラブを通じて地域のスポーツ振興についても学ぶ。また、スポーツ指導における法的責任や人権、政治、資格を通じてこれからのスポーツ振興について学ぶ。授業の後半は、講義だけでなくグループワークを中心に行う。			
評価方法 ※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（50％）及び定期試験に代わる授業外レポート（50％）とし、総合的に評価する。			
評価基準				
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配付もしくは紹介する。			
注意事項				
授業シラバス				

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	歴史からみる人間の経済Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	木曜 1 時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置づけられる。		
授業目的 ※	この講義では、経済人類学的アプローチから人間の経済の歴史を学んでいきます。我々の経済を相対的な視点から見直し学びを深めていくことによって、あるべき経済の姿について考えていきます。壮大な人類史と一緒に学ぶことによって、思考の枠組みを押し広げることが期待されます。皆さん自身がこれからの経済の仕組みを展望しヴィジョンを描いていくために、歴史という観点から経済について学んでいきましょう。歴史からみる人間の経済Ⅱでは、市場社会の発生から現代経済までを扱います。		
到達目標	①経済の歴史についての基礎知識を習得する。 ②ビジネスシーンで活用できる経済史の知識を習得する。		
授業内容 授業形態 ※	第1回 イン트로ダクション 第2回 市場社会の形成と展開① 第3回 市場社会の形成と展開② 第4回 列強諸国による富の収奪の拡大 第5回 社会主義経済への期待と現実① 第6回 社会主義経済への期待と現実② 第7回 世界大恐慌の発生と経済の停滞 第8回 市場社会 vs 社会主義経済 第9回 大量生産・大量消費の時代の到来 第10回 激動の世界経済 第11回 ナチスドイツの登場 第12回 ナチスドイツの思想と経済政策 第13回 19世紀文明の崩壊 第14回 社会主義の敗北と資本主義の勝利 第15回 まとめ 講義形式で進めていきますが、資料読解やディスカッションの機会を多くつくり受講生の参加意欲を高めていきます。		
評価方法 ※	期末試験（70％）と中間レポート（30％）により総合評価をおこないます。中間レポートは講評するので、振り返りに利用してください。		
評価基準			

テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
注意事項	1週間のうち120分の予習と120分の復習時間をとること。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cdbl=1995

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	基礎体育講義	単位数 ※	1
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	木・1
キャンパス※	佐倉キャンパス	教室※	多目的
学修分野			
授業目的 ※	基礎体育講義では、自身の健康や身体について、体育の観点から学ぶことを目的とする。		
到達目標	【到達目標】 1) 健康について運動や栄養、社会などの様々な視点からアプローチし、自身の心と身体についての理解を深め、自身の生活スタイルや考え方を見つめ直す(生涯学習・自己管理)。 2) 健康を取り巻く社会的問題を把握し、保育者・指導者として必要な知識・思考法・能力を身につけ、主体的な解決方法を見出すことができる(保育に関する知識・課題解決力)。 3) 授業で学んだことをふまえながら、自身や子どもたちにおける「健康」の現代的課題について考え、他者と協働して課題解決をすることができる(保育に関する知識・コミュニケーションスキル・チームワーク・課題解決力)。		
授業内容 授業形態 ※	視覚教材を用いることで、「健康」に関する最新の研究データや情報を用い、講義形式で授業を展開していく。自己分析や資料分析、他者との意見交換などのグループワークを取り入れ、自身の意見やグループの意見をまとめ、発表する。発表に対しては学生同士でもフィードバックを行う。他者の意見を受入れたり、検討したりすることで自身の価値観や考えの変容・深まりを体験する。		
評価方法 ※	受講時課題30%、提出物(レポート)20%、試験50%		
評価基準			
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	https://kcn.u-keiai.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00801A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	債権法	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	木曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-301
学修分野			
授業目的 ※	「債権法」って何？と思い、インターネットで検索された皆さんは、さぞ驚いたことでしょう。そもそも「債権法」という名の法律はありません。民法の中の一領域(債権総論・債権各論)を指すものです。2020年4月より「債権法」(改正民法)は大きく変わりました。 私法の代表格である民法は、私人間の法的関係を規律する法律です。皆さんも起床してから就寝するまで、必ず民法を根拠にした日常生活をしています。例えば、電車やバスに乗ったり、スマホでオンラインゲームをしたり、コンビニでお菓子を購入したり、お気に入りのミュージシャンのライブに行ったり……。この講義では、身近な契約関係をはじめとした事例をもとにしながら、日常生活と債権法の関係性を踏まえて講義を行います。具体的には、民法の中でも第3編「債権(第399条から第724条)」を対象とし、重要な条文・判例を中心に講義を展開します。 なお、「民法(総則・物権法)」の履修が望ましいですが、本講義でも民法全体の復習をします。民法の学習は基本的な法的枠組みを把握することが大切であり、特に、消費社会において生起する紛争を題材にしながら、関係条文や関連判例を駆使して当該事例を解決する能力(法的思考力(リーガルマインド))を涵養します。		
到達目標	到達目標は、次の通りです。 第一に受講者が基本的な債権法の知識(条文の正確な理解、解釈、最高裁判例の判旨内容等)を修得する。 第二に消費生活をはじめとした日常生活をめぐる紛争(トラブル)を解決でき、また紛争(トラブル)の発生を未然に予防する能力を修得する。併せて、民法上の法的思考力(リーガルマインド)を涵養させる。		
授業内容	民法全体を鳥瞰しながら、債権法の具体的な条文や関連判例の解説を中心に講義(座学形式)を展開します。また、関連判例の事例を用いながら、ケースメソッド方式によることで知識の定着を目指します。なお、公務員試験問題や司法書士・行政書士試験、宅地建物取引主任士試験、消費生活相談員試験等の過去問を活用して理解を深めます。 「民法の一部を改正する法律」(法務省ホームページ http://www.moj.go.jp/MINJI/minji07_00175.html) (2020年4月施行)に基づき講義を進行します。		

授業形態 ※	授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 新型コロナウイルス感染症の状況に応じて授業形態については変更があり得るが、ケースメソッドや受講生間のディスカッション等を適宜行う予定である。なお、弁護士等のゲスト講師を招聘する場合もある。 【遠隔授業】 配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求める。そうした意見及び教員の見解を受講生全員で共有することにより、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。 【対面授業】 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。 いずれの授業形態であっても、上述の授業目標を達成するために、各回で取り上げるケースをもとにして、論点・争点の把握をはじめ、条文の基礎的理解を踏まえながら、論理展開(三段論法)等を学びます。なお、受講者は、指定テキストの該当頁を熟読し、予習する必要がある、適宜、ミニレポート、疑問メモ等を作成してもらいます。 また、適宜、ソクラテスメソッドや受講生同士のディスカッション等を行い、各受講生の法的思考力を向上させます。 なお、アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)として、各講義内容に関連した最高裁判例をテーマにして、Problem Based Learning(課題解決型学習)も行うとともに、弁護士等のゲスト講師とのディスカッションも予定しています。 ■外部講師を招聘する授業回について ※外部講師(ゲストスピーカー)は、90分授業の一部分のみを担当します。 ※外部講師招聘日は外部講師の都合により変更となる可能性があります。
-------------------	---

評価方法 ※	試験、レポート、小テスト、平常点(事前事後学習の実施状況、リアクションペーパーの提出、授業内での発言等)を総合的に考慮して評価します。 試験については、論述式とし、本講義項目に関連するテーマを2問出題する予定です。 レポートについては、受講生が関心を持っているテーマについて、2,500～5,000字以内で作成してもらいます（なお、レポート提出については、原則として電子メールによることにします）。 小テストについては、公務員試験（民法）の過去問等を中心とした択一（選択）式問題（マークシート方式による）と論述式を出題する予定です。本講義の中間時点での効果測定を行うとともに、民法の基礎的な内容を理解しているかどうかについて確認します。 オンライン授業の場合は、Googleフォーム等を利用して、試験や小テストを実施します。また、レポート課題はS-Naviクラスプロファイルを用いて回収をします。
評価基準	民法、特に債権法に関する制度・概念の正確な理解、要件・効果の的確な把握、推論のための基本的手法の修得ができていないかを評価基準とします。 具体的な評価の配分としては、試験については50点、レポートについては20点、小テストについては20点、平常点（発言等）については10点とします。 なお、平常点には各講義の出席率は考慮しません(いうまでもなく、単位認定の前提となります)。
テキスト	ISBN：9784419067670, 「民法への招待〔第6版〕」,池田真朗, 税務経理協会, 2020年 なお、「ポケット六法（令和4年度版）」等、小型六法を用意しておくことが望ましい。
注意事項	法律学概論の他、憲法、民法（総則・物権法）の履修が望ましい。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	共生論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	木曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-202
学修分野			
授業目的 ※	自校教育の中核である本科目を履修することで、受講生が建学の精神である「利他共生」を正しく理解するとともに、本学で学ぶことの意義や意味を共に考えることを通じて、自らを肯定的に捉えて有意義な学生生活を過ごしていける契機となる事を目的とする。		
到達目標	「利他共生」をキーワードとして、また「淑徳学」という縦糸で綴られた「過去」と「現在」の学びを通じて、現在の自分自身を見つめ直し、4年後の将来像を見据え、各自が意義のある学生生活を送るための意思を持つことができるようになることを目標とする。		
授業内容 授業形態 ※	「共生論」とは、言い換えれば「淑徳学入門」である。仏教の教えに基づく「利他共生(りたきょうせい)」を建学の精神に持つ淑徳大学について、過去から学び(歴史・思想)、現在を見つめ(OB.OGからのメッセージ)、本学で学生生活を送るすべての受講生が未来を志向するために、共に学び、共に考える科目である。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 基本的には講義形式で行うが、第12回及び第13回は外部講師として、大蔵寺副住職及びOB.OGの方2名をお招きする予定である。また、第14回に実施予定の確認テストについては、具体的な「問題の作成」を受講生に担ってもらうことで、参加型の授業としていきたい。なお、VTR等の視聴覚教材も適時使用していきたい。 【遠隔授業】 配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求める。それら意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。 【対面授業】 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設けていく。 ■外部講師を招聘する授業回について ※外部講師(ゲストスピーカー)は、90分授業の一部分のみを担当します。 ※外部講師招聘日は外部講師の都合により変更となる可能性があります。		

評価方法 ※	出欠は毎回確認するが、単に授業に出席しているだけでは単位の取得とならない。「淑徳人からのメッセージ」に対するリアクションペーパー、講義内容に対する「問題の作成」、自身の将来像に関するミニレポート、確認テストの合計点で評価を行う。 ※リモート授業の場合は、毎回提示する課題の提出を持って、評価を行う。
評価基準	「淑徳人からのメッセージ」に対するリアクションペーパー@5点×4回=20点、講義内容に対する「問題の作成」@3点×7回=21点、自身の将来像に関するミニレポート9点、確認テスト50点の、計100点中の得点で評価を行う。 S:100～90、A:89～80、B:79～70、C:69～60、D:60未満
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。
注意事項	特に1年生の受講を念頭においた講義内容を予定している。縁あって淑徳大学に入学した学生諸君の意欲を持った受講を期待する。 ※なお、現在テキスト教材を制作中であり掲載されているシラバスも(仮)である。正式なシラバスは初回に提示予定である。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	生活と地域の多様性	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	木曜 2時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	401
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。		
授業目的 ※	地域コミュニティの必要性が求められている中で、生活上の様々な課題の解決に向けた事業や活動を実践している生活協同組合の地域活動等をととして地域の多様性を学び、社会人としての知識を深めます。		
到達目標	到達目標 SDG s の達成に向けての様々な地域活動の事例などを学ぶことにより、生活の基盤となる地域の多様性と地域コミュニティの抱える課題を理解し、社会人としての基礎力を高めることを目指します。		
授業内容 授業形態 ※	以下の内容で進める予定です。 第1回 ガイダンス 第2回 SDG s の達成に向けて 第3回 千葉県の農業の現状、産直産地の取り組み 第4回 フードチェーン・品質保証について 第5回 若者の消費者トラブル防止 第6回 ライフプラン、金融経済・投資 第7回 フードバンクの取り組み 第8回 地域社会の環境への取り組み、エネルギーについて 第9回 地域の防災・減災の取り組み 第10回 高齢者支援の取り組み 第11回 リスク管理について 第12回 コロナ禍に学ぶ宅配事業・店舗事業の実践 第13回 次世代へつなぐ『平和』への取り組み 第14回 地域の課題解決の仕組み 第15回 まとめ *テーマごとに講師がかわります。 講師の都合により日程変更する場合があります。		
評価方法 ※	テスト（20％）、レポート（70％）、授業への取り組みの能動性（10％）により総合的に評価します。 レポートについては授業で説明し返却しますので、振り返りに利用してください。		
評価基準			
テキスト	授業時に配布する資料がテキストです。		
注意事項	（予習）次回の予告に基づき、テーマに関するニュースなどを調べる。 （復習）授業で配布した資料などを理解し、場合によりレポートや課題を提出する。 毎回、予習・復習を各120分以上してください。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cddl=1512		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名 ※	国際関係論	単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	木曜 2限
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室15
学修分野	教養教育科目（基礎科目）		
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道德心と倫理観をもって行動できる。		
到達目標	1. 東西冷戦の前後で世界がどのように変化したかを学び、国際情勢を巨視的に把握する。 2. 主要な個別の紛争に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報道されるニュースを理解できるようにする。 3. 国際社会において日本が置かれた状況に関して理解を深める。		
授業内容 授業形態 ※	第1回 導入：映画『天地創造』から見た西洋人の思考（目標1） 第2回 総論：東西冷戦の始まりと展開（目標1） 第3回 各論：（教科書第1章）アメリカという「不思議」の国（目標2） 第4回 各論：（教科書第2章）EUは何を目指したか（目標2） 第5回 各論：（教科書第3章）戦後の日米関係を総括する（目標2） 第6回 各論：（教科書第4章）沖縄問題とは何か（目標2） 第7回 各論：（教科書第5章）中東問題とは、「ユダヤ」「イスラム」とは何か（目標2） 第8回 各論：湾岸戦争からイラク戦争まで（目標2） 第9回 各論：「9・11同時多発テロ」とアフガン戦争（目標2） 第10回 各論：「アラブの春」とイスラム国（目標2） 第11回 各論：（教科書第6章）中国の「失敗」と「成功」（目標2） 第12回 各論：（教科書第7章）朝鮮半島問題（目標2） 第13回 総論：（教科書第8章）世界地図を読む（目標3） 第14回 各論：日本の領土問題（目標2） 第15回 総論：世界の紛争（目標3）		

評価方法 ※	レポート（文章作成）100%。指定されたテーマに関して文献を調べてレポートを作成してもらう。
評価基準	1. 東西冷戦の前後で世界がどのように変化したかを学び、国際情勢を巨視的に把握できたかを評価する。 2. 主要な個別の紛争に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報道されるニュースを理解できたかを評価する。 3. 国際社会において日本が置かれた状況に関して理解が深まったかを評価する。
テキスト	書籍名：武器になる！世界の時事問題 背景がわかればニュースがわかる 著者名：池上彰 出版社：大和書房 価格：1500円＋税 I S B N ・ I S S N : I S B N 978-4-479-79715-9
注意事項	各論の構成・順番については変更の可能性があります。その場合は前もって通知します。 講義形式で板書も行ないますのでノートを必ず準備してください。また、資料プリントを毎回配ります。DVDなどの視覚教材も使用する予定です。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉
科目名 ※	国際関係と外交課題B	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	木曜3限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-302
学修分野			
授業目的 ※	現在の国際関係の在り方を様々な現象や事例を通して理解する。また現代日本の外交課題・国際課題を理解する。その際、国際政治の歴史や国際関係理論を手がかりにする。国際関係論や国際政治を専門的に学ぶ上での基礎知識を取得することができる。		
到達目標	現在の国際社会やその問題に興味関心をもてるようになるとともに歴史、理論の視点からそれらを考えられるようになる。日本の外交課題・国際問題に対して自分の立場とともに異なる視点や立場に対して理解をできるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	「平和」というテーマから現代の国際関係の在り方を学ぶ。そして現状を理解するために背景となっている国際政治史・国際関係理論を概説する。また日本の外交課題を考察するために、日米関係、日本と東アジアを事例として取り上げる。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【遠隔授業】 オンデマンド講義形式を中心におこなう。授業の双方向性を実現するため、そして理解度・習熟度を見るために課題・リアクションペーパー、参考文献の学習の提出が求められる。それをもとに講評を実施し、理解の共有をはかる。 【対面授業】 講義形式を中心におこなう。講義によっては映像資料なども用いる。毎回授業では、双方向性を実現するため、可能な限りアクティブラーニングの手法を活用する。理解度・習熟度を深めるために課題・参考文献の学習がの提出が求められる。		
評価方法 ※	課題・リアクションペーパー、参考文献の学習、そして最終テストより授業内容への理解度・習熟度を判断する。		
評価基準	課題・リアクションペーパー40点、参考文献の学習10点、最終テスト50点 合計100点		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		

注意事項	授業への積極的な参加が望まれる。予習、リアクションペーパーの作成を通じて、講義で学んだこと、考えたこと、自分との関係を積極的に考えること・記述することが望まれる。また、個々人で自習をおこない興味を持ったテーマについてインターネット・文献調査をすることが必要となる。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	データベース論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度後期	曜日・時限 ※	木曜3限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	102
学修分野			
授業目的 ※	データベースはコンピュータシステム上でデータを効率的に管理するためには必須の知識・技術であり、近年における多種多様で大量のデータに対する処理・分析の必要性の高まりを受け、さらに重要度を増している。本講義では、データベースの必要性から、データベースの種類・構造、データベース設計といった基礎から、リレーショナルデータベースにおける情報検索等の具体的な操作までを実習を通して学ぶ。		
到達目標	コンピュータを用いてデータを統合的に管理するためのデータベースの知識・技術（データの蓄積・検索・管理等）について、リレーショナルデータベースシステム（RDBS）を中心として理解する。（知識・理解）		
授業内容 授業形態 ※	第1回：情報システムとデータ管理 第2回：データベースの必要性和活用事例 第3回：データベース管理システムとその機能 第4回：データベースの種類 第5回：データモデル 第6回：実体・関連モデル 第7回：データベース設計 第8回：リレーショナルデータベース 第9回：正規化の基礎 第10回：正規化の応用と実際 第11回：SQLによるデータベースへの問い合わせの基礎1（検索） 第12回：SQLによるデータベースへの問い合わせの基礎2（追加・更新・削除） 第13回：SQLによるデータベースへの問い合わせの応用1（関数と副問合せ） 第14回：SQLによるデータベースへの問い合わせの応用2（表の結合による検索） 第15回：まとめ 対面 ※状況によりオンラインに変更する場合あり。		
評価方法 ※	課題 授業ごと、あるいは項目ごとに課題を課し、授業の理解度を評価する。 小テスト 授業ごと、あるいは項目ごとに小テストを課し、授業の理解度を評価する。 平常試験 中間試験および期末試験の2回実施し、それぞれそれまでに学んだデータベースの知識・技術（データの蓄積・検索・管理等）についての理解を評価する。		

評価基準	課題（30％）、小テスト（30％）、平常試験（40％）
テキスト	特に無し（WebやPowerpoint等の資料を使用する）
注意事項	・クラス分け（a～cクラスの3クラス）は後期開始時の履修状況を考慮して調整し，初回授業開始時までに表示する（履修制限を行う場合は第2回目までに表示）． ・演習ではパソコン（Windows）にアプリケーションをインストールし，そのアプリ
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2022後期）、授業科目「データベース論」で検索

※は必須記入事項